

## 5 当時を振り返る ～理事長メッセージから～

病院スタッフ向けの広報紙<sup>\*1</sup>に掲載した理事長<sup>\*2</sup>メッセージから、当時の様子を振り返ります。

\*1：病院局スタッフ通信(～第121号(R3.3))/スタッフ通信(号外(R3.4)～第125号(R3.8))/病院機構スタッフ通信(第1号(R3.9)～)

\*2：地方独立行政法人化(令和3年4月1日)前は、「埼玉県病院事業管理者」

### 【第118号(令和2年6月発行)】グラフ：①

- 新型コロナウイルス肺炎は、まだ完全な終息に至っていませんが4月中旬のピーク以降収まりつつあります。緊急事態宣言が解除されたばかりで、今後どのような第二波が来るのか全く予想ができませんが、ちょっとひと息ついたというところでしょうか。
- この間、各病院はそれぞれの立場で県立病院として大きな役割を果たしてくださいました。中等症・重症のたくさんの患者さんを引き受けてくださった循環器・呼吸器病センター、他の総合病院からのがん患者さんの紹介が増えたがんセンター、検査未施行の重症肺炎患者の救急搬送に対応してくださった小児医療センター、知的障害者の陽性患者さんの入院対応や県立病院職員のメンタルヘルスケア支援をしてくださった精神医療センター、繁忙を極めた各病院の事務系業務の支援にあたった(病院局)経営管理課、すべての職員の皆さんに心より感謝申し上げます。
- 外出などの自粛で日常生活も大きく制限され、さらに不安と緊張で心が折れそうだった職員も多々いらした中、医療者としての使命感と矜持で頑張ってくださいました皆さん、本当にご苦労様でした。
- 秋から冬にかけての大きな第二波の到来が心配ですが、ご家族、友人のみならず、上司・先輩・同僚ともしっかりコミュニケーションをとって、心身ともに健康な毎日を過ごしてください。



### 【第119号(令和2年10月発行)】グラフ：②

- 6月になっていったん収まった新型コロナ感染症ですが、7月上旬から再び猛威を振るいました。
- 9月になってようやく収まる傾向が見えてきましたが、Go To ○○など、経済を支える様々な活動が始まり少し気持ちが緩んでいるのでしょうか、10月上旬になってまだまだすっきり収まりきれていないという状況が続いています。
- 幸いにして、県立病院では職員の感染者はほとんどいませんし、院内感染も発生していません。
- 職員の皆さんにおかれては、友人・同僚などとの会食もままならないばかりか、不要不急の外出なども制限していただいていることと思います。
- 不安と闘いながら県立病院の職員としての使命感と矜持で毎日業務にあたっていただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。



### 【第120号(令和3年1月発行)】グラフ：③

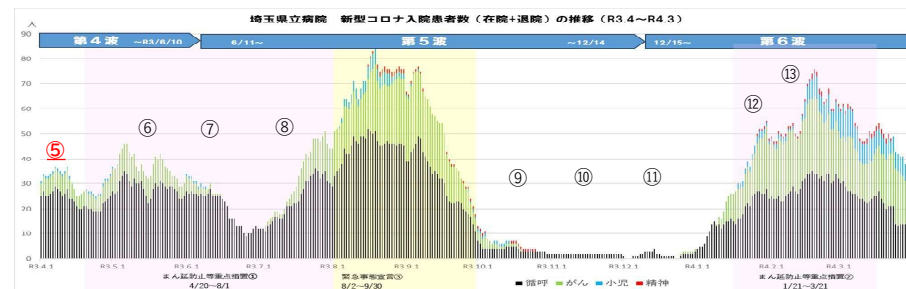
- 新型コロナウイルス感染症の陽性者数が激増し、1都3県に緊急事態宣言が発出されました。
- 県立4病院の職員の感染者数も増加傾向にあり、その多くは家庭内感染と会食によるものです。
- 感染予防の徹底で幸いにもクラスターの発生にはつながっていませんが、改めて全職員に彩の国「新しい生活様式」宣言の遵守と不要不急の外出自粛を要請します。
- 蔓延が続くこの新型コロナウイルス感染症ですが、まだしばらくの間は収束の兆しはありません。
- 医療資源が全国一脆弱な埼玉県ですので、公立・公的病院、特に県立病院には、すべての県民から大きな期待が寄せられていますし、我々の頑張りに対する数多くの温かい感謝のご意見や励みにつながるいろいろなご寄付もいただいています。
- 年末年始も十分休暇が取れず、様々な生活制限や緊張の続く勤務で皆さんのストレスも溜まりがちではなかったかと心配していますが、医療職としての使命感と矜持で、引き続き民間の医療機関では提供できない高度専門的医療や政策医療に精力的に取り組んでいきましょう。

### 【第121号(令和3年3月発行)】グラフ：④

- 桜が咲き誇る温かい春が到来しました。例年であれば、お花見に加えて年度の変わり目の送別会、歓迎会などで笑顔や嬌声に包まれる季節ですが、新型コロナウイルス感染症の勢いは衰えず、緊急事態宣言は解除されたもののストレスの多い毎日が続いています。
- トンネルの出口がまだ見えてきていませんが、もうしばらく緊張感をもって職務にあたってくださいませよう、よろしくお祈りします。

### 【号外(令和3年4月発行)】グラフ：⑤

- 年度は替わりましたが、新型コロナウイルス感染症は収束する気配がなく、日常生活ではこれからも3密の回避や外出の自粛をお願いすることになります。
- その上で医療職としての使命感と矜持で、感染症対策のみならず、本来の医療をしっかりと継続し医療崩壊を防いでいただかねばなりません。
- 県立病院は新しい体制になりますが、すべての職員がしっかりと力を合わせてこの厳しい時期を乗り越え、埼玉県民のために頑張りましょう。



【第122号（令和3年5月発行）】グラフ：⑥

- 変異株が猛威を振るいつつあります。緊急事態宣言が解除されてわずか1か月でまん延防止等重点措置が講じられ、ホッとする時間ありませんでした。
- コロナ患者さん対応で一部の診療を制限しつつも、県立病院本来の役割である高度で専門的な医療をしっかりと展開して欲しいという相反するお願いに加え、ワクチン接種などの県の医療行政の支援にも携わっていただいています。
- 緊張が続きストレスが溜まる業務を1年以上にわたって担っていただいています。この感染症のまん延は災害であるとしていただき、本部からの指示やお願いに引き続きご協力ください。

【第123号（令和3年6月発行）】グラフ：⑦

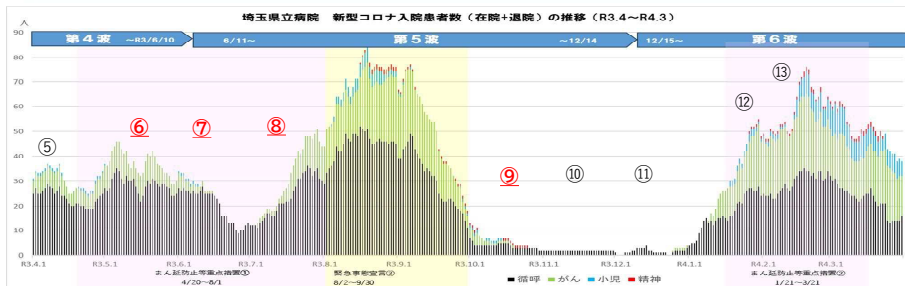
- 年度初めから始まったまん延防止等重点措置がまだに解除されず、不便で非日常な生活を送りながら、コロナ患者さんの診断や治療、ワクチンの集団接種など県の医療行政にもご協力いただき、感謝申し上げます。

【第124号（令和3年7月発行）】グラフ：⑧

- 梅雨が明けいよいよ本格的な夏が始まります。本来なら疲れを癒す夏休暇をとっていただき、ご家族や同僚と旅行や会食を楽しんでいただきたいところですが、残念ながら首都圏では少し落ち着きかけた新型コロナウイルス感染症が再燃し、相変わらず非日常の毎日が続いています。
- 多くの職員がすでにワクチンを接種して下さっていますが、油断せずマスク・手洗いなどの感染予防を引き続きお願いします。

【第2号（令和3年10月発行）】グラフ：⑨

- 新型コロナウイルス感染症の急速な収束により、埼玉県においても入院患者の減少、特に重症患者さんの激減で医療のひっ迫状態が一気に解消に向かっています。
- 各県立病院も入院患者さんの大幅な減少で、今まで1年半以上にわたって稼働し続けていた病棟や設備のメンテナンスや消毒ができるようになりました。
- 第6波がいつ始まるのか予想もつかない状況ですが、まったく得体の知れなかった疾患も徐々に解明され、感染予防、発症予防、重症化予防の対策も少しずつ進みつつあります。
- 1年半以上にわたるストレス過多の非日常の勤務状況も少しずつ落ち着きつつあります。短い期間かもしれませんが、彩の国「新しい生活様式」安心宣言を順守していただきつつも、ご家族や同僚・友人と少しのんびりした時間を過ごしてください。



【第3号（令和3年11月発行）】グラフ：⑩

- 9月中旬以降、新型コロナウイルス感染症は急速に収束し、9月30日に緊急事態宣言も解除されました。何が奏功したのかよくわかりませんが、11月中旬になっても落ち着いています。
- 大きな第6波が到来せず、のどかな年末年始を迎えられることを心より願っている今日この頃です。

【第4号（令和3年12月発行）】グラフ：⑪

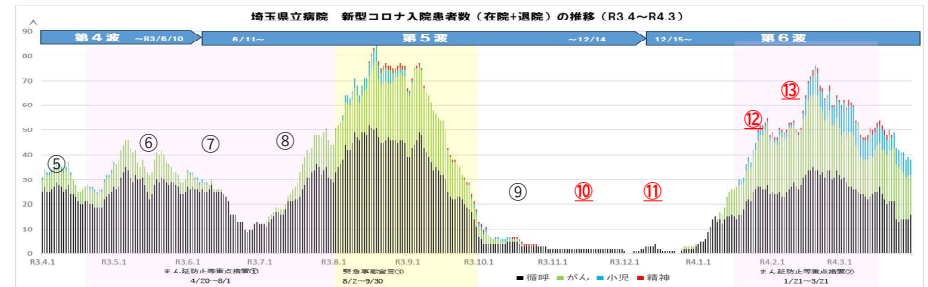
- 新型コロナウイルス感染症第5波が収束し3か月が経過しました。
- 得体のしれないオミクロン株が現時点で少し不気味ですが、第6波の心配がない穏やかな年末年始を期待しています。

【第5号（令和4年1月発行）】グラフ：⑫

- お正月明けからオミクロン株による市中感染が拡がりつつあり、1月21日付で埼玉県にもまん延防止等重点措置が発出されました。感染爆発時の病床体制もフェーズ5での準備が指示されました。
- 2度にわたって4病院長と機構本部間で対応を検討しましたが、一般診療を極力制限せずに十分なコロナ対応を行うことの困難さを改めて痛感したところです。
- オミクロン株はご存じの通り、上気道の所見が中心で重症化しにくいことから、どうしても油断しがちです。
- 非常に感染力が強いことから、すでに職員が感染したり、濃厚接触者になったりすることで、病院の運営にも支障が生じ始めています。
- 改めて、従来どおりの感染予防対策、特に3密の回避とこまめな手洗いに努めていただくとともに、不要不急の外出の制限、同僚や友人との会食など控えてください。少しでも体調が不良の時は病院に届け出て、指示に従ってくださいようよろしくお願いいたします。

【第6号（令和4年2月発行）】グラフ：⑬

- 先月上旬から爆発的に広がったオミクロン株によって、職員の感染が増えています。
- また学校や未就学児の各種施設で今も感染が持続していることから、子どもたちを介しての家族の感染・濃厚接触も急増し、先月中旬から多くの職員の欠勤状態が続いています。
- 一方で、合併症を有する高齢者の入院要請が増えていますので、皆さんの疲労やストレスはいかばかりか、心配しています。
- 第6波も少し落ち着き始めているようですので、今しばらくの頑張りをお願いします。



【第9号（令和4年5月発行）】グラフ：⑭

- 埼玉県内のコロナ陽性者数も少しずつですが落ち着き始め、各病院で対応していただいている入院患者さんも数名以下の日が続いています。このまま第6波が落ち着いてくれることを祈る毎日です。
- 一方で、コロナに感染した、濃厚接触者になった、あるいは休園や学級閉鎖のためにお子さんの面倒を見なければならないなどの理由で、全病院で40名前後の欠勤がまだに続いています。
- 一部の職場では厳しい人手不足になっていると思いますが、様々な工夫で少しでも体を休めてください。

【第10号（令和4年6月発行）】グラフ：⑮

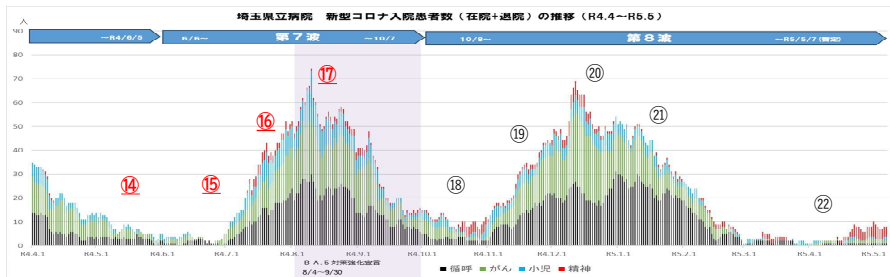
- 埼玉県内のコロナ陽性者数は横ばいから少しずつ増加、いわゆる下げ止まりの状態です。
- 幸いにも4病院ともほとんど陽性患者さんの入院はなく、平時の医療も全くひっ迫していません。
- スタッフの欠勤者も少数ながら続いています、ぜひ皆さんで協働して夏季休暇を取り心身ともにリフレッシュしてください。

【第11号（令和4年7月発行）】グラフ：⑯

- 先月のスタッフ通信では、皆さんで協働して夏季休暇を取ってくださいね、とお願いましたが、第7波の勢いはとどまることを知らず、4病院あわせて150名以上の欠勤者が続いています。
- 時間外勤務の増加や休日返上の勤務などの無理なお願いをせざるを得ず、大変申し訳なく思っています。
- 地方独立行政法人化初年度(令和3年度)の実績、本来の県立の専門病院としての4病院全体の診療実績は、新型コロナウイルス感染症の影響でやむを得ないこととはいえ、当初計画から大きく外れ決して満足できるものではありませんでした。
- 一方で、コロナ対応、救急応需や医師派遣などによる地域医療への貢献など、県の保健医療行政に対する協力は高く評価されたのではないかと考えています。

【第12号（令和4年8月発行）】グラフ：⑰

- 猛暑は少し収まりつつありますが、新型コロナウイルス感染症第7波の勢いはまだ高止まりしており、不穏な状況が続いている毎日です。
- スタッフの皆さんには身体的にも精神的にも大きな負担をかけていますが、皆さんで協力、工夫してリフレッシュできる機会をできるだけ設けてください。



【第14号（令和4年10月発行）】グラフ：⑱

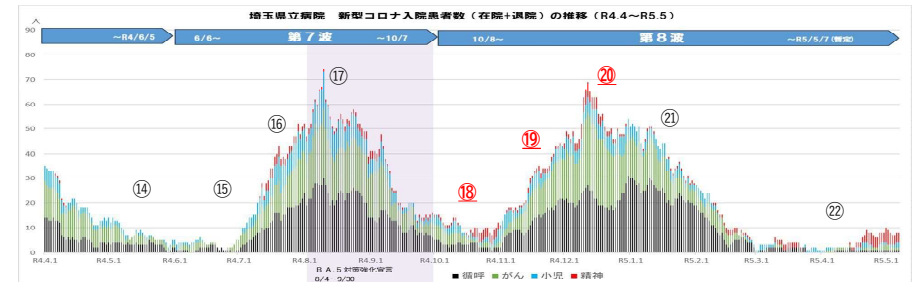
- コロナは完全には収束していませんが、各病院に入院中のコロナ患者さんは数名と落ち着いています。
- 感染予防にしっかりと留意し、おいしいものを食べたり、近くへのんびり出かけたり、短い秋を楽しみましょう。
- また、様々なセミナーや学術集会在、オンライン開催から現地開催に戻りつつあります。
- 研修の場を通して友人や同僚にも会える機会も増えつつあります。
- 第8波の影も忍び寄りつつあり会食などの制限も続いています、学びの秋もエンジョイしてください。

【第15号（令和4年11月発行）】グラフ：⑲

- 朝夕めっきり冷え込み、そろそろコートが必要になってきました。
- 新型コロナウイルスの陽性者数も、第7波が完全に収束する前に増え始めましたので、今度の第8波はかなり大きな波になりそうです。
- 一息入れる間もなく厳しい年末を迎えそうですので、あらためて気合を入れ直さねばなりません。
- まずは皆さんとご家族の健康が最優先です。しっかり感染予防に取り組みましょう。

【第16号（令和4年12月発行）】グラフ：⑳

- 10月下旬から始まった新型コロナウイルス感染症第8波は、その後も衰える気配はなく、埼玉県でも毎日1万人を超える陽性者数が報告されています。
- 陽性者数のカウントの方法も幾分不明瞭になり、実際にはもっと多くの陽性者が身の回りにいることが危惧されていますし、ほぼ無症状の陽性者数も増えつつあり、各病院で突然のクラスターに見舞われている状況が散見されています。
- スクリーニングで陽性になった無症状の職員にとっては、青天の霹靂ではなかったでしょうか。
- 世間は既にずいぶん前からウィズコロナですが、ゼロコロナ対策を取っている県立病院としては、ここが正念場です。
- 皆さんには感染予防にしっかり取組んでいただくだけでなく、少しでも体調に変化があればすぐに報告してくださるよう、よろしくお祈りします。



【第17号（令和5年1月発行）】グラフ：㉑

- ・ 今年の年末年始休暇は、一部の企業を除いて、ほぼ暦どおりの6日間と短いお休みでした。
- ・ 一方で私たち医療機関は、365日24時間常に稼働していますので、いつものように交代で休みを取るしかありません。
- ・ **新型コロナ感染症対応も4年目に入りましたし、第8波の影響で日常生活の制限もあり、皆さんが心身ともに十分休めたのか危惧しているところです。**

【第20号（令和5年4月発行）】グラフ：㉒

- ・ コロナの陽性者は最近少しずつ増える気配がありますが、巷ではコロナ以前の日常にほぼ戻りつつあり、**ポストコロナといわれる状況が始まっています。**
- ・ さらに連休明けからは5類に移行しますが、感染症としてのコロナに何らかの変化があるわけではなく、**県内の大半の医療機関の多くが現時点でもゼロコロナ対応を余儀なくされています。**
- ・ 病院機構の各病院は高度専門的な医療を提供していることから、コロナに罹患すると重篤な状況に陥る患者さんを多数抱えています。
- ・ 病院内の緩和策を今後どのように進めていくかについて、現在各病院長と協議を始めていますので、今しばらく制約が続きますがご協力をよろしくお願いします。

